

# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第18週 2023年5月1日（月）～ 2023年5月7日（日） 2023年5月12日作成

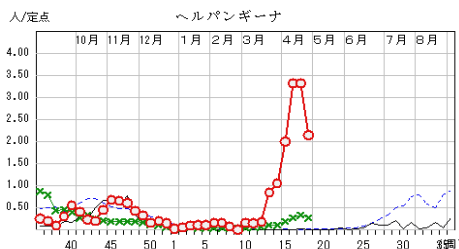
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

## （1）ヘルパンギーナ

第18週の報告数は94人で、前週より52人少なく、定点当たりの報告数は2.14であった。

年齢別では、2歳（19人）、3歳（19人）、4歳（17人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（7.67）、佐世保市保健所（4.83）、西彼保健所（2.50）であった。

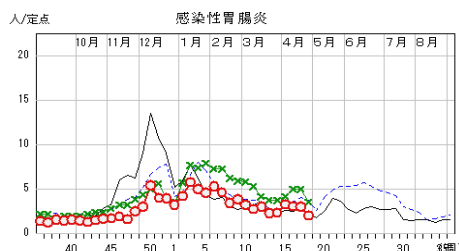


## （2）感染性胃腸炎

第18週の報告数は89人で、前週より43人少なく、定点当たりの報告数は2.02であった。

年齢別では、5歳（14人）、3歳（12人）、4歳（10人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（4.29）、長崎市保健所（2.70）、佐世保市保健所（2.17）であった。

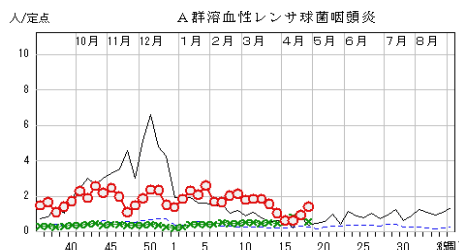


## （3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第18週の報告数は62人で、前週より20人多く、定点当たりの報告数は1.41であった。

年齢別では、10～14歳（12人）、3歳（9人）、5歳（8人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（9.40）、壱岐保健所（2.00）であった。



☆トピックス・季節情報

### 【ヘルパンギーナ】

第18週の報告数は、94人で前週より52人少なく、定点当たりの報告数は2.14でした。地区別にみると、県北地区（7.67）、佐世保地区（4.83）、西彼地区（2.50）は他の地区より多く警報レベルが継続していますので、今後も動向に注意が必要です。

本疾患は、発熱と口腔粘膜に現れる水疱性発疹を特徴とし、夏期に流行する小児の急性ウイルス咽頭炎です。4歳以下の乳幼児が中心で、例年6月から7月に患者数のピークが認められます。

主な原因であるエンテロウイルスの感染経路は、飛沫感染と患者の便に汚染されたオムツや下着、器物からの接触感染（糞口感染）です。便からは1週間から4週間にわたりウイルスが検出されるため、回復後も感染源となり得ます。保護者は乳幼児に手洗いを励行させて、感染防止に努め、体調管理に気をつけてあげましょう。

○ 当年(長崎県)      前年(長崎県)  
× 当年(全国)      前年(全国)

【感染性胃腸炎】

第18週の報告数は89人で、前週より43人少なく、定点当たりの報告数は2.02でした。地区別にみると県央地区（4.29）、長崎地区（2.70）、佐世保地区（2.17）は他の地区より多くなっています。今後も予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第18週の報告数は62人で、前週より20人多く、定点当たりの報告数は1.41でした。地区別にみると県南地区（9.40）、壱岐地区（2.00）は他の地区より多くなっています。特に県南地区は、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：ヘルパンギーナに注意しましょう

ヘルパンギーナの第18週の報告数は、94人で定点当たりの報告数は2.14でした。全国で2番目に多くなっています。地区別にみると、県北地区（7.67）、佐世保地区（4.83）、西彼地区（2.50）が多く、警報レベルが継続しています。

ヘルパンギーナは、手足口病とともに夏期に流行する小児の急性ウイルス咽頭炎で、例年6から7月に患者のピークが認められます。発熱と口腔粘膜に現れる水疱性発疹を特徴とし、基本的に予後良好ですが、場合によっては髄膜炎や脳炎などの重篤な合併症を併発することもあります。

主な原因は、エンテロウイルスです。県内で4月に採取された検体から、エンテロウイルス属のコクサッキーウイルスA2およびA10が検出されています。

エンテロウイルスは、せきやくしゃみを介した飛沫感染と、患者の便に汚染されたオムツや下着、器物からの接触感染（糞口感染）により広がっていきます。特に便からは1～4週間にわたりウイルスが検出されるため、回復後も感染源となり得ますので、オムツ交換や排便後の手洗いの徹底が必要です。主として乳幼児や小児に流行するため、保護者の方はお子さんの手洗いと体調管理に気をつけてあげましょう。保護者は乳幼児に手洗いを励行させて、感染防止に努め、体調管理に気をつけてあげましょう。

長崎県におけるヘルパンギーナ報告数の推移

